



代表取締役
長谷川 武司 氏

株式会社 長谷留印刷所 様

<http://hasetome.com/>

本社 工場：新潟県燕市柏木 2631 番地
TEL. 0256-62-4191

創 業：大正 8 年(1919年) 5 月
代表取締役：長谷川 武司



LED-UV 印刷 + 水性ニスコーティングをワンパス処理 パッケージ印刷対応の RMGT 920 モデルで、 生産リードタイムを大きく短縮

株式会社長谷留印刷所は、パッケージ・販売促進の企画・印刷・加工をトータルでプランニングする印刷会社である。地場産業である洋食器・金物用品の包装箱の製造に始まり、長年に渡り蓄積した高い技術力とノウハウで、様々なパッケージを提案・製造してきた。小ロットのパッケージ印刷に対応した最適サイズの追求と、より短い生産リードタイムを実現するために 2016 年 6 月、LED-UV 乾燥装置、ニスコーティングユニット搭載の、A 全サイズ 4 色機 RMGT 920 モデルを導入している。導入の経緯と成果、今後の展望について、同社社長の長谷川 武司 氏と、専務取締役 長谷川 健二氏にお聞きした。

「お客様の大切なものを包み、 育てていく」

株式会社長谷留印刷所は、「心を込めてお客様の大切なものを包み、育てていく」という基本理念で、多くのパッケージの企画、製造に長年に渡って携わってきた。地方のお土産、お酒、食品関連など板紙を使ったパッケージから、薄紙の包装紙まで商品を包むもの全般の印刷、加工に関わっている。クライアントの要望に的確に対応するために、同社では原則、クライアントと直接取

り引きを行うスタイルをとっている。クライアントとフェイストゥフェイスで、パッケージのデザインや包装紙、付属する取扱説明書、シール等の印刷物を、トータルでコーディネートできるメリットがあるからだ。営業活動では地元はもちろん、関東圏までの幅広いエリアへ展開している。パッケージの加工では、ビニール・プレス表面加工、箔押しから、ダンボールとの合紙、打ち抜き、貼り、組み立てまで、多様な形状の商品を製造できる万全の体制を構築している。

さらに、印刷、加工部門に隣接した延べ床面積 200 m² の物流倉庫を 3 棟構え、リピートオーダーに迅速に対応する在庫管理システムを構築している。同社では板紙、厚紙の加工技術を応用し、パッケージ以外にも店頭什器類、POP スタンドなどの販促商品もラインアップにくわえ、近年では箱製品に AR の技術を組み込んだ広告ツールへの展開など、紙器製造以外の分野の開発も積極的だ。

パッケージ印刷のプロの目が 選んだ LED-UV 機

同社ではこれまで、菊全サイズの 2 色機を 1 台、4 色機を 1 台、5 色機を 1 台の合計 3 台体制で印刷を行ってきた。中でも 2010 年に導入した UV 仕様の菊全判サイズ 5 色印刷機 DIAMOND 305 は、ニスコーティングユニットを搭載し、高品質な UV 印刷と水性ニスコーティングを行える印刷機として、同社の主力印刷機として活躍している。パッケージ印刷の表面保護として、水性ニスコーティングの要望は強く、同社では菊全サイズの油性 4 色印刷機の老朽化に伴い、ニスコーティングユニットを搭載した UV 印刷機の導入を検討していた。LED-UV 乾燥装置、ニスコーティングユニットを搭載した A 全判印刷機 RMGT 920 モデルの導入経緯について、社長の長谷川 武司 氏は次のように述べている。「当社の強みである小ロットパッケージに効率良く対応できる印刷機が RMGT 920 モデルでした。当社の平均通し印刷枚数は 3,000 枚位で、大きな用紙に多面付けをするより、A 全サイズ用の紙に面付



様々な販促商品を企画中という長谷川専務

WORKS

実績紹介



板紙を使ったパッケージ印刷から、薄紙の包装紙までまとめて提案



インラインの品質検査装置によって色管理に集中できるという機長の 馬場 健氏



LED-UV、ニスコーティングユニット、品質検査装置搭載の RMGT 920 モデル

けするほうが品質管理的にもコスト的にも有利だったからです。LED-UV 乾燥装置付きにしたのは、環境面の性能などLED-UV 印刷の将来性を見込んだためです。もちろん、LED-UV 印刷と既存機とのカラーマッチングも十分確認の上、Goを出しました。」

同社の RMGT 920 モデルは 4 色目印刷ユニットの圧胴上にインターデッキ LED-UV 乾燥装置を装備し、排紙部には IR 乾燥装置と LED-UV 乾燥装置を内蔵している。通常の 4 色印刷では、排紙部の LED-UV 乾燥装置を使用し、4 色 + 水性ニスコーティングではインターデッキ UV 乾燥装置と IR 乾燥装置を使用して、印刷表面を乾燥させている。専務取締役の長谷川 健二氏は UV 印刷と水性ニスコーティングの目的について「パッケージ印刷では厚紙を積むので、通常の印刷より圧がかかりブロッキングしやすくなります。また、加工や輸送のちょっとしたコストで傷や色落ちになることがあります。特に赤のインキなどが食品などに付着したら、大きなクレームとなります。LED-UV 乾燥装置による即乾と水性ニス

コーティングによる表面保護が、こうした事故を未然に防止する大きな効果があります。」

パッケージ印刷の生産リードタイムと品質向上を実現

RMGT 920 モデルが主力としているパッケージ印刷では厚さ 0.5mm までの仕事に対応、また包装紙などの薄紙の即乾印刷にもその威力を発揮している。「パッケージ印刷の会社では、薄紙は外注に任せるといふ会社もありますが、当社では全て取り扱うことができます。納期面や品質面で安心してまかせてもらえるメリットをクライアントにお伝えしています。当然、機械にもそうした性能を求めています。RMGT 920 モデルは十分応えています。ニスコーティングでは、ニスコーターが昇降する機構がいいですね。薄紙の印刷中でも、ニス用のプランケットを取り付けたり、次の印刷の準備ができるので非常に段取りが良くなりました。また、品質面でもインラインの品質検査装置のおかげで、不良紙流出のリスクが大きく軽減されました。」と長谷川専務は導入メリットを述べている。

クライアントの要望に柔軟に 대응して需要を伸ばす

同社では LED-UV 搭載の RMGT 920 モデルの即乾印刷によって、印刷から加工までトータルで生産リードタイムが大きく短縮できたといい。後加工のラインに渡すまでの乾燥待ち時間がないためだ。今後の展望について長谷川 専務は次のように述べている。「LED-UV 印刷に水性ニスコーティングは、私共の会社がおそらく先駆けだと思います。UV のパッケージ印刷市場においてこの方式は環境面を配慮すれば今後も増えてくるのではないのでしょうか。パッケージ印刷の分野では小ロット化が進んでいます。前準備ができるだけかからないよう効率良く仕事を行う。手がかかっていたものを自動化していく。こうした観点が一層大切になります。今後も LED-UV を含め新しい技術にアンテナを上げ、クライアントの要望に柔軟にお応えできる会社として、革新を続けていきたいと思っています。」



昇降タイプのニスコーター

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
東日本営業部 東日本支社 北垣暁弘(写真右)
エム・エル・ビー株式会社
営業部 齊藤剛氏(写真中央)
設楽印刷機材株式会社
新潟営業所所長 片山 康洪氏(写真左)

長年、パッケージ印刷にたずさわっている長谷留印刷所様のノウハウや技術をいかせるよう、代理店の方ともに何度も足を運び機械の仕様を打ち合わせしました。順調に稼働していると聞いて喜んでいます。(北垣暁弘)

